

トスカーナ便り：笑いのツボ

イタリアでは、1月6日のベファーナ（魔女の一種で、良い子にはプレゼントを、悪い子には靴下に炭を入れていくそうです。）までが大きく「クリスマス休暇」。いつもにもまして、ゆるーい時間の流れ方で、テレビでは延々と新旧色々な再放送もののクリスマス関連お笑い映画や、お笑い番組です。要はずっとお笑い。「これを見ないとクリスマスって気がしない」的なクリスマスの伝統みたいです。

日本のお笑い王国大阪からやってきた者としては（と言っても吉本新喜劇とか見たことないんですが）こちらのお笑い、どこにツボがあるのかも気になるところです。日本だって、大阪と東京とでは全然ちがいますよね？

どうもイタリア人、「立ち上がったら床が抜ける」とか「バナナの皮で滑ってコケてカツラが飛ぶ」的な大阪弁でいうところの「べたべた」な分かりやすいお笑いが大好きみたいです。ところで、ちょっと脱線しますが、こちらでは驚くほど日本のアニメとか番組が放送されていて、プラスマイナス10歳前後くらいまでの世代の人だと、子供の頃に見ていたアニメが一緒だったりします。（今でも「ドラえもん」とか「ワンピース」とか「アルプスの少女ハイジ」とか放映されていますよ。）で、話はお笑いに戻って、日本で80年代中ごろに放映された「風雲!たけし城」とか、イタリアで超ヒットしたらしく、まあかなり体を張った無茶な感じがウケるようです。すごく分かりやすい笑いのツボですね。

反対にそんなちょっとやり過ぎ感のあるギャグですが、「オチ」はあんまりなさそうですし、あんまり気にもならない様子。コメディ映画も特に「オチ」がなくなんとなく終了してしまいます。

イタリア人、普段でもダラダラしゃべります。大阪ではダラダラしゃべっていると「で、オチは？」って突っ込まれつつ成長するので、私もつい「で、オチは？」と聞きたくになりますが、「オチってなに？」って聞かれても困るので、今のところ我慢しています。

あとはイタリアでは絶対受けない「笑い」が二つ。

1. どつく：大阪では「どつき漫才」的なお笑いのスタイルがありますが、これは単に「暴力」と受け取られる可能性が高いので、だめです。
2. 自虐ネタ：自分を貶めて笑いをとる、というスタイルです。大阪では日常的ですよ？でもこちらではそもそも「謙譲」とか「謙遜」という考え方をしないので、自分や家族や友人をちょっと大げさに褒めたり賞賛することはあっても、貶めることはありません（あくまでもポジティブ!）。下手に自虐ネタを使うと、「そんなことない」と全力で慰められるか、もしくは「どうしてそんなこと言うの？」と本気で悲しがられたりします。ただ笑いを取るつもりだったのに、なんだか深刻になってしまって、「そんなつもりじゃうんねけど…」とこれまた自分も悪い事したような寒〜い気分になるので、自虐ネタは使わないことをお勧めします。

そしてドイツでは・・・もちろん The same procedure as every year! 「Dinner for One」です。何で毎年同じものを見て大笑いできるのかまだ謎ですが…。私も大晦日になるとついこの番組見てしまいます。◎



Tanti auguri di buon anno

+

Frohes neues Jahr!

2016年もどうぞよろしくお願いたします!

(写真はイタリアの新年の飾り「ヤドリギ」です。)